



○彼岸花

曼珠沙華とも言われます。

「暑さ寒さも彼岸まで」ということで季節の変化を感じる今日この頃です。ウォーキングにも最適な気温になりつつあります。さて、その季節を感じさせてくれる彼岸花が隣の大蔵池公園の縁を彩っています。まだつぼみですが、ウォーキング中に見つけました。おそらくこの公園を作ったときにどなたかが球根を植えたのではないかと想像します。田んぼのあぜ道ではよく見かけますね。これはモグラよけの意図があるそうです。田んぼの土手をモグラが穴だらけにしてしまったら、水は流れ出てしまうとともにも棚田は崩れてしまいます。そうならないように植えられた彼岸花は里山の風物詩ともなっています。

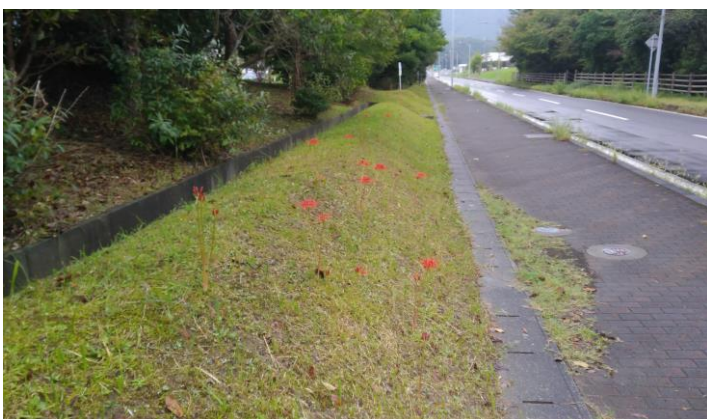
それにしても彼岸花は毎年毎年同じ時期になると忘れることなくけなげに芽を出し花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれます。人間のために咲いているのではないでしょうが、誠に律儀な植物だと思ってしまう。ただ赤や白い花が衝撃的な彼岸花なので印象に残りやすいですが、他の植物も皆、活動の時期を選択しながら毎年同じ営みを続けていますね。

私たち人間は植物と同じ季節の変化の中で暮らしていますが、去年と今年、今年と来年は同じ暮らしではないですね。学生時代であれば入学の年1年生、一つ先輩になって2年生、中・高校では最上級生の3年生、そして卒業し、新しい学びの場へ、または社会人としての第一歩という風に年ごとに大きな変化があります。社会人になっても同僚や上司との出会い・別れ、転勤、スキルアップなど次々と変化があります。

中・高校などでの3年間というのは程よい学びの期間ではないかと思えます。それに比べて専門学校や短期大学は主に2年間ですので、ちょっと短いですね。本校の2年生も1年生の時期があったという間に過ぎ去り、今は実習と就職活動でみんな忙しいときです。しかし考え方を変えてみれば短期集中での学びにもよいところがあると思えます。集中力・計画性・意欲の持続などが挙げられるでしょう。専門学校である本校の強みは即戦力(実践力)の育成にあります。1年生も集中講義で土曜日(振替あり)に登校するときもあります。それらで苦労したことは皆自分の力になっていくはずですので、前向きに取り組んでほしいと願っています。

さて彼岸ですが、私の家では“おはぎ”を作って仏壇に供えることをします。彼岸花も咲きますが、“萩の花”も同じ時期に咲きます。こういうことを話題にできる日本の四季は本当に素晴らしいものだと思います。(台風という厄介なものもやってきますが…)

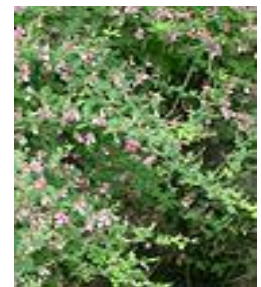
季節の花賛歌



9月22日撮影：大蔵池公園の縁 道の向こうでは総合病院が建設中です。



白萩



赤萩



彼岸花



Wikipedia から